



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第29号

2021年11月4日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

複数校でのSP活動

11月4日、9月から緒川小学校で活動を始めた又場SPが、今月から北部中学校でも活動をスタートしました。大学では中学校と高校の免許を取得する予定とのことですが、小学校にも興味があり、小学校の免許を取得するための勉強もしているそうです。「どちらの校種もそれぞれの魅力があるので、両方でSP活動をしてみたいです」と活動前の面談で話していました。

この日は、北部中学校で特別支援学級に入っていました。理科の授業で、生徒と一緒にビデオを鑑賞してくれていました。「小学校との雰囲気の違いはどう？」と尋ねると、「やっぱり、全然違います。今日から中学校でもしっかりと学んでいきたいです」とわくわくした表情で話してくれました。「緒川小学校で活動させていただいたことで、小学校も本当に魅力を感じました。来年度の受験をどうしようか、免許の取得をどうしようか、迷っています」とのことでした。町内で活動するウィークリーSPさんの中には、小学校で活動をする中でその魅力に気づき、今年の教員採用試験を小学校で受験したSPさんがいました。ちょうど今週末の「SP研修会」にそのSPさんも又場SPさんも出席する予定なので、そこで話を聞いたり、勉強方法を聞いてみたりすると良いかもしれません。ウィークリーSPをやっているからこそ、意欲の高いSPさん同士だからこそ、話すことで有益な情報を聞くことが出来たり、より「頑張ろう」「やってみよう」と思えたりするでしょう。ぜひSPさん同士でたくさん話をして、高めあっていただけたらと思います。

最近では複数校で活動をするSPさんも増えてきました。どのSPさんも、教員という仕事に魅力を感じながら、キラキラした表情で活動してくれています。1校で活動をするだけでも大変な中、「やってみよう」「飛び込んでみたい」と思えるSPさんの姿は本当にかっこいいです。複数校で活動可能な東浦町のSP活動をぜひ有効活用して、将来に繋げていただけたらと思います。



同日、片葩小学校に行くと茂木SPが4年生の教室にいました。授業ではタブレットを使って、まとめ作業をしていました。茂木SP、子どもたちに溶け込んでいました。ICT機器を使用した授業はこれからの時代普通の光景になっていくことでしょう。すでに子どもたちの中では“普通のこと”になっているかもしれません。そんな今の、生の教育現場をSPさんたちは感じてくれているのだと思います。



放課中、茂木SPと話していたら「東北と九州に一人で旅行に行ってきました！夜行バスに乗って！」とのこと。相変わらず物凄いバイタリティです。毎回その行動力に驚きます。ぜひSPさん自身（教員自身）がいろいろな経験をして、関わる子どもたちに「楽しいことがいっぱいあるんだよ」と話ができる先生になってもらえたらと思います。